

事務事業名	指定文化財の保存活用	所属	生涯学習部文化課	H20事業費 (単位：千円)	17,707
目的	<p>指定文化財について、文化財所有者・管理者との連携を密にし、適正な維持管理を行うとともに、保存と公開を実施する。</p> <p>重要文化財旧木原家住宅等、市所有の指定文化財等の維持管理と公開活用を進める。</p> <p>文化財に関する行事を実施し、文化財保護意識の高揚と普及に努める。</p>				
H20年度の取り組み実績及び成果	<p>指定文化財の環境整備（除草、清掃、古文書虫干し等）の実施71件に対して補助</p> <p>市所有文化財施設（旧木原家等）の管理と公開活用</p> <p>教育普及事業（小中学校への出前博物館 9校、614人、出前講座 6カ所、224人、親子の体験歴史村 61人、小田神楽 五行祭」実演 100人 等）</p> <p>文化財リーフレット等の作成、配布（史跡三ッ城古墳、国登録文化財リーフレット等）</p> <p>指定文化財防火設備点検補助（重要文化財竹林寺本堂、重要文化財福成寺本堂内厨子）</p>				
評価及び課題	<p>指定文化財の維持管理については、所有者や管理者に対して恒久的な保存とともに公開活用を促進する機運を高めるために実施するもので、その目的は達成していると考えられる。このため、今後も所有者や管理者の理解を得て継続的に実施する必要がある。</p> <p>各種の文化財に関する行事は、参加者が増加傾向にある。</p> <p>合併に伴い指定文化財の数も増加したが、全てを網羅する解説書や詳細な位置図等がないため、今後、こうした書籍類の作成と配布を検討する必要がある。</p>				

事務事業名	文化財の調査	所属	生涯学習部文化課	H20事業費 (単位：千円)	42,309
目的	<p>各種開発事業者の協議申請等に基づき、分布試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無を確認するとともに、その取扱いについて適切な指導助言を行なう。</p> <p>都市化が進む中で、失われつつある各種文化財についての悉皆調査を進め、保護・保存対策を講じるための資料を得る。</p> <p>文化財の指定調査、合併町指定文化財の調査と再検討を進める。</p>				
H20年度の取り組み実績及び成果	<p>開発に伴う埋蔵文化財の分布試掘調査と、権限移譲に伴う指導・助言（協議件数222件、試掘調査件数45件）</p> <p>重要遺物（木製品）の保存処理（503点）</p> <p>各種文化財の基礎（悉皆）調査 動植物調査、コモ樽製作技法の記録（報告書作成）</p> <p>合併町指定文化財の調査と再検討（62件のうち56件終了）</p>				
評価及び課題	<p>H20年12月から宅地取引きに関する法律の改正によって、埋蔵文化財の有無を確認する協議が増加しており、これに対応する体制（H21年度から埋蔵文化財係を設置）強化ができた。</p> <p>文化財の基礎（悉皆）調査では、県内で唯一残っていたコモ樽の製作記録が出来上がった。おそらく数年後にはこの技術も絶えてしまう可能性が高いものである。また、動植物調査についてはほぼ終了したため、今後は報告書の執筆に取り掛かる計画である。</p> <p>各種文化財の基礎（悉皆）調査については、旧市を中心に計画されたものであるため、将来的にはこれを新市全体に広げていく必要がある。</p>				

事務事業名	史跡等保存整備	所属	生涯学習部文化課	H20事業費 (単位：千円)	43,760
目的	<p>地下に眠る古代の安芸国分寺の伽藍跡を恒久的に保護・保存するとともに、これを現代社会のなかで歴史公園として新たな機能を付加し、市民をはじめとする多数の人々の活用に供する。</p>				
H20年度の取り組み実績及び成果	<p>保存整備工事は、史跡指定地の東側工区（中央部）について遺構の保存を目的とした造成を実施し、併せて板塀や井戸の表示と植栽等を行なった。</p> <p>公園用地については、H14年度に公有化できなかった土地（111㎡）について、地権者との協議が終了したため、これを購入した。</p>				
評価及び課題	<p>保存整備工事（歴史公園化、H24年度未完成予定）は、H15年度から開始して6年が経過し、全体の約65%が終了した。工事期間が長いこともあり、整備が終了した区域については順次公開しており、市民の憩いの場とともに近隣の幼稚園や小学校等の学習広場として好評を得ている。</p> <p>駐車場やガイダンス施設の整備が計画より縮小され、中止となっている。しかし、多数の来訪を想定した歴史公園の活用には、アクセス進入路の確保やこうした施設も必要不可欠なことから、改めて整備の検討を行う必要がある。</p>				

事務事業名	町史編さん	所属	生涯学習部文化課	H20事業費 (単位：千円)	12,617
目的	<p>合併旧町の締めくくりとして、安芸津町史の編さんを行い、同町の歴史を継承する町史を刊行する（H21年度末刊行予定）。</p>				
H20年度の取り組み実績及び成果	<p>資料調査を実施し、それに基づいて原稿の執筆を進めるとともに、原稿の一部については編集印刷を開始した。</p> <p>町史編さん委員や執筆者等の努力によって、これまで明らかでなかった近世及び近代の文献資料を数多く発見する事ができた。特に三井文庫（三井物産株式会社）と防衛庁史料編さん所では、三井造船関係（第二次世界大戦前）の一括資料〔三津を中心とした軍用道路計画（都市計画）、三井病院（現県立安芸津病院）、軍需工場（造船中心）と海岸の埋め立て等〕が保管されていることが明らかとなり、協議の結果、初公開の承諾を得たため、町史への掲載を検討している。</p>				
評価及び課題	<p>これまで不明であった安芸津地域の歴史を、史・資料に基づいてある程度まで明らかにすることが可能になってきた。原稿についてもスケジュールに沿って順調に進んでおり、当初計画以上の町史が出来上がると考えられる。</p> <p>市史編さんが次期の課題となって来るため、5町史刊行の元となった関係史資料を整理し散逸を防ぐとともに、〔非現用〕となる市公文書の内「歴史的公文書」を、公文書館法等に基づき適切に継承する体制の整備が必要。</p>				

事務事業名	芸術文化の振興	所属	生涯学習部文化課	H20事業費 (単位：千円)	18,939
目的	<p>市立美術館を活用して美術鑑賞機会の提供と制作表現活動の振興を図るほか、音楽コンサート公演の実施及び文化団体への助成等を行い、本市の芸術文化の振興を図る。</p>				
H20年度の取り組み実績及び成果	<p>美術館では、所蔵作品展2回、所蔵企画展（日本の近現代版画展）1回、特別企画展（現代絵本作家原画展、現代の造形展）2回のほか、市民を対象とした公募展「東広島市美術展」などを開催した。また、小学校5校を対象に美術館の所蔵作品を持ち込んで鑑賞教育を行う「出前美術館」と小学校6校を対象に本物の芸術に触れ、体験してもらう芸術家出張授業を芸術家2人（絵画、ギター）に依頼して実施している。その他、市中央公民館を会場として広く一般を対象とした広島交響楽団のコンサートを開催した。</p> <p>また、市内文化関係団体に対して助成しており、自主的な各種文化事業が開催されている。東広島市文化連盟に多くの地域文化団体が加盟し、生活の潤いやコミュニケーションを豊かに育む源となっている。</p>				
評価及び課題	<p>美術館の新企画として所蔵企画展「日本の近現代版画展」を開催しており、所蔵作品による展覧会としては破格と言えるほど多くの来館者を迎えることができた。これは、版画をコンセプトの一つとして収蔵活動を継続してきた本市美術館ならではの特色を展覧会に活かした効果によるものと考えている。</p> <p>また、出前美術館と芸術家出張授業は学校の先生及び児童から好評で、展覧会に合わせて土・日曜日に開催している小学生を対象としたクイズとも連携して、美術館へ来館する児童・生徒の増加につながっている。</p> <p>【美術館来館者数】 総計9,243人</p> <p>【出前美術館・芸術課出張授業】 出前美術館 小学校5校延べ504人 芸術課出張授業 小学校6校延べ323人</p> <p>【広響コンサート】 来場者数561人</p> <p>一方、美術館来館者等利用促進のための広報普及活動の手段を拡大していくことが重要であり、現在取り組んでいるところである。</p>				

事務事業名	美術品購入	所属	生涯学習部文化課	H20事業費 (単位：千円)	7,200
目的	<p>本市の芸術文化の向上を図る上で、美術館の果たしている役割は大きい。継続的・系統的に美術品を購入することにより、収蔵美術品を充実、展覧し、特色ある美術館運営を図る。</p>				
H20年度の取り組み実績及び成果	<p>平成20年度は、「市立美術館美術品等収集委員会」の審査を経て、6作家10作品の版画作品及び2作家2作品の陶芸作品を購入できたほか、1作家1作品の版画作品、1作家2作品の絵画作品及び1作家1作品の彫刻作品の寄贈があった。 これまで美術館で収蔵した美術品は購入作品328点、寄贈作品268点で、合計596点となっている。</p>				
評価及び課題	<p>本年度は、本市美術館の美術品収集方針に基づき、日本の近現代版画を代表する作家の代表的な作品や現代陶芸作家の作品及び広島県ゆかりの日本を代表する作家の絵画作品及び彫刻作品を収集することができた。 これまでに収蔵した美術品は、372点の近現代版画を中心として、現代作家の陶芸作品や絵画作品などである。タイムリーな収集が必要な美術品事情にあって、継続的に収集してきた実績はきわめて意義の大きいことであり、特に近現代版画については、全国的にみても有数のコレクションを有する美術館となりつつある。 一方、収蔵スペースが狭隘なため、適切な保存管理に支障を来しつつある。そこで、現在スペースの拡張を検討しているところである。</p>				

事務事業名	市民ミュージカル公演助成	所属	生涯学習部生涯学習課	H20事業費 (単位：千円)	3,000
目的	市民ミュージカルの公演を通して、文化・芸術に関する情報を発信し、市の活性化に資するとともに地域文化の向上に寄与し、幅広い年齢層のコミュニケーションと児童の情操教育づくりを図るなど、地域文化の向上に寄与する市民ミュージカル制作実行委員会に対して補助を行うもの。				
H20年度の取り組み実績及び成果	<p>(1) 助成内容 補助金申請者 東広島市民ミュージカル制作実行委員会 委員長 家森 建昭 補助金交付金額 3,000千円</p> <p>(2) 公演内容 参加スタッフ(3会場) 約100人(台本編集、歌唱指導、大道具制作、舞台転換など)</p> <p>西条会場(第2回) 公演日：平成21年2月1日(日) 会場：中央公民館大ホール(13時~/17時~) 演目：新・龍王山物語～西条編 来場者：昼の部：442人/夜の部：126人 全体：568人</p> <p>黒瀬会場(第10回) 公演日：平成20年11月30日(日) 会場：黒瀬文化センターアザレアホール(13時~/17時~) 演目：新・龍王山物語～黒瀬編 来場者：昼の部：360人/夜の部：122人 全体：482人</p> <p>豊栄会場(第6回) 公演日：平成20年10月19日(日) 会場：豊栄文化センターアゼイリアホール(13時~/17時~) 演目：板鍋山の弥助 来場者：昼の部：223人/夜の部：156人 全体：379人</p>				
評価及び課題	<p>ミュージカルは、文学、音楽、舞踊など、総合芸術としてあらゆる要素を持ち備えており、舞台を志す一人ひとりが持っている素晴らしい個性や才能を開花させ、多くの人とのふれあいの中で共に学び合い、その中で一人ひとりの自己実現に向かって努力する姿は、市民が生き生きと生活する元気な東広島市の原動力となり、これからの生涯学習の推進に大いに貢献している。</p> <p>昨今の財政事情による全市的な補助金制度の見直しが行われている中、今後、自立して事業が運営できるよう、当団体へ中・長期的なビジョン策定について指導・助言が必要とされる。</p> <p>特定の地域や参加者に偏らない市全体のイベントとしての位置づけ、開演上、大規模な施設を有した特定の地域に限らず、市内全域に整備されている公民館等の小規模施設を活用した活動も促進する。</p>				